

1 単元名「学校のまわり」

2 単元について

本単元は、大単元「わたしのまち・みんなのまち」の中の小単元であり、学習指導要領では第3学年及び第4学年の内容（1）に相当する。ここでの学習内容は、「自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする」ことである。

「学校のまわり」は、児童にとって初めて社会科を学習する小単元である。社会科としての学習内容や方法に触れさせながら、目で見る社会的事象をありのままに観察して記録したり、記録をもとにして全体の傾向や様子を指摘したりできることが本小単元では重要である。地域の様子を観察・調査し、白地図に記録したり、絵地図に表したりすることを通じて、社会科の学習の楽しさを感じられるようにしていくことが大切である。また、方位や主な地図記号の基礎的な知識・技能を習得させることも本小単元の学習で必要となる項目である。

3 単元設定の理由

本学級は以下のように構成されている。

本学級では、教科や学習の内容によって、指導の形態（習熟度別グループ学習、生活年齢別、合同指導、障害種別指導等）を工夫し、一人一人の課題やニーズに合わせた学習を行っている。本学級の児童の実態を把握するために、表を作成した。（資料参照）

本学級の児童は、学校内や登下校を一人で行うことができない児童がいる一方、家から学校までの道のりを白地図から読み取ることができる児童もいる。実態に大きな差があることが分かった。

しかし、児童一人一人によって関心のある分野は異なるが、この単元に関する学習意欲は高い。絵をかいて友達に情報を知らせることが好きな児童や、地図記号を調べることが好きな児童、インターネット等で地域の映像を見ることが好きな児童など様々である。本単元では、児童一人一人の興味関心を大切にしながら絵地図に学校の様子を表したり、学校のまわりを調査し探検する学習を行ったり、地図記号や4方位などの社会的な事象にふれ学習したりする。それぞれの学習目標は異なるが、児童一人一人の良さを学習の中に生かしていきたい。

本学級の児童の学習意欲は高いが、学校のまわりにある公共施設やお店などの名称がわかっても何をする機関であるかが分からなかったり、白地図や絵地図を見て自分の家がどこにあるのかわからなかったりする児童がほとんどであった。以前にこの単元を学習した6年児童を含め、4方位や方位磁石の名称及び使用方法について理解している児童は一人もいなかった。以上のことから、本単元に対する関心・意欲は高いが、基礎的な思考能力や知識は備わっていないと考えられる。

そこで、児童の知的探求心を第一に考えた学習を行っていくことが大切であると考えた。学習の全体目標を「草野地区の案内人になろう」に定め、調べたことを発表するようにする。案内をするにあたって、言葉だけで説明することは難しいことを子供たちから引き出し、絵地図や白地図を使うことの良さを気が付かせていきたい。発表を行うまでの過程で、子供達がそれぞれ分担をして絵

地図や白地図を作ることで、自地域に対する愛着や見識を深め、土地がどのように使われているかを考えるきっかけとしたい。

さらに、学習を通して基礎的な技能・知識・理解を身につけさせていく必要がある。また、体を動かしたり、ゲーム的な活動を毎回の学習で行ったりすることで、楽しく学習を行いながら記憶に残る学習にしていきたい。学習を進めていく上で、学校探検への計画を子供たちに立てさせたり、学区がどのような様子であるか予想を立てさせたりすることで、社会科の学習が楽しいと感じるようにしていきたい。

子供たちがこの地域で生活していくことを考えると、自分たちの住んでいる町の様子や場所の把握をしておくことは必須であると考えます。今回の学習を通じて、社会的な考えの素地を育て、今後の社会科の学習を楽しみにする児童の姿を目指し手立てを講じていきたい。

4 単元の目標

- 調べ学習に意欲的に取り組み、身近な地域の特色や良さを考えようとするができる。
(関心・意欲・態度)
- 身近な地域は場所によって違いがあることに気が付くことができる。
(思考・判断・表現)
- 身近な地域の様子について必要な情報を集め、調べた内容を絵地図や白地図にまとめることができる。
(技能・知識・理解)

5 単元の評価規準

評価観点	評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	○身近な地域や様子、特色や良さを理解しようとしている。
社会的な思考・判断・表現	○普段の生活経験から学校のまわりについての予想を立てることができる。
観察・資料活用の技能	○身近な地域の様子について情報を集め、絵地図にまとめることができる。
社会的事象についての知識・理解	○身近な地域の様子は、場所によって違いがあることを理解している。

6 単元の指導計画

	時	○主な学習活動	・指導や支援の手立て
つかむ	1・2	○「草野学区の案内人になろう」という学習の見通しをもつために、視聴覚教材を視聴する。 ○東西南北体操や東西南北並び替えクイズを行い、社会科の楽しさを味わう。	・視聴する番組の様子が分かるように、途中で番組を止めて、教師が説明を加える。 ・これから活用する方位磁針や白地図を見せて、教師が体操やクイズを行い、模範を見せる。児童と一緒に活動して学習を行う見通しをもたせる。
	3・4	○方位磁針の使い方について学習し、教室の中で活用して方角調べを行う。 ○地図記号について調べ学習を行い、地図記号カルタ作りを行う。	・ワークシートを用いて方位磁針の使い方を確認できるようにする。 ・地図記号をよりよく覚えることができるように、形の由来について視聴覚教材や資料で確認できるようにする。
	5	○学校のまわりには、どのような施設やお店があるのかを考える。	・予想の手がかりとなるように子供の意見から出てきた場所を写真で示す。
	6	○屋上から学校のまわりを見て、方位磁石で方角を確認し、どの方角にどのようなものがあるかを調べる。	・屋上から見た景色を写真やビデオカメラで撮り、教室でも確認できるようにする。
予想・調べる・まとめる	7	○屋上に行って分かったことについて発表会を行う。	・メモが取れなかった児童は、写真や動画を見て気が付いたことを発表するようにする。
	8	○屋上から見ただけではわからない土地の使われたかについて、話し合いをし、予想を立てる。	・家やマンション、お店などのイラストを用意し、拡大した白地図に貼れるようにする。 ・屋上で調査したワークシートをもとに、土地の使われ方について予想を立てる。
	9	○学区探検の事前学習を行う。どのようなことに注目して活動すればよいかを確認したり、道順を確かめたりする。	・班ごとに係を決め、それぞれの児童が行うことを明確にしておく。 ・家やマンション、公園などの場所を地図上で把握するために、シールを用意する。

1 0 ・ 1 1	○学区探検を行い、学校のまわりの交通量や店、施設や田畑の利用について調べ学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめを行う際の資料とするために、児童の発言や土地の様子をビデオカメラで撮影する。 ・観察する視点が不十分な児童には、教師が声掛けを行うようにする。
1 2	○調べたことをについて班で話し合いなどを行い、絵地図に探検したことについてまとめる。 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大地図を用意し、写真やイラスト、絵などが自由に貼れるようにする。 ・絵地図を作成するには、ビデオで調査したことが振り返ることができるようにする。
1 3	○学区探検で調べられなかった場所を、インターネットや地図を見て、調べ学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵地図にまとめることができるように、電子地図を操作できるようにしたり、教師が撮影した映像を用意したりする。
1 4	○調べて分かったことや、気が付いたことについての発表会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの場所にどのようなものがあるかがわかるように、拡大絵地図を用意する。 ・これまでに学習したことがわかるように、いままでの映像や写真を用意する。

6 研究主題との関わり

児童の実態に合わせた支援・指導の工夫～楽しい授業を目指して～

○楽しく学習するための手立て

<東西南北体操>

- ・ 4方位を体で表現する体操である。まず始めは、教師が児童に手本を見せて、行い方を真似させる。示したい方角に腕を伸ばしながら方角の名前を言うようにする。東→西→南→北の順番でリズムよく体を動かすことで、4方位の理解を定着させていきたいと考えている。

<東西南北並び替えクイズ>

- ・ 4人1組のグループを作り、方位が記されたカードを一人ずつ用意する。配られたカードを頭の上に持ち上げ、児童同士が見やすいようにする。チーム対抗戦を行い時間を計測する。素早く4枚のカードを正しい位置に置くようにする活動である。

<地図記号カルタ>

- ・ 児童に地図記号を調べさせ、カルタにして学習を行う。能力別にグループを編成し、全員がカルタを取ることができる機会を設ける。Highグループは記号の成り立ちなどにも着目させ、どのような機関であるかを尋ね、見識を広げられるようにする。

○体験活動の充実

学校のまわりを絵地図や白地図にまとめるためには、実際に場所を確認し、調査を行うことが大切であると考え、「予想→体験→まとめ」のサイクルで学習を行う。予想を立てることが難しい児童は、教師が選択肢を用意し、選べるようにする。始めは学校の屋上に行き、学校の周りには何があるかを調べさせ、まとめを行う。その後、屋上から見ただけではわからないことを考えさせたり、予想を立てさせたりした後、学区探検を行う。本学級の児童は、家のまわりについて知っていることは多いが、家から少し離れた土地について知っていることは少なかった。今回の体験を通じて、自分の知らなかった土地について学ぶことが楽しい、知らない土地に関しても調べてみたい、という気持ちを高められるようにしていきたい。

○視覚教材や拡大絵地図の活用

本学級の児童は、テレビに映像が出ると興味をもって見る。学習の導入や地図記号の成り立ちなどについては、視聴覚教材を見せ、児童の興味関心を惹かせるようにした。体験した活動を繰り返し確認できるよう、学区探検の様子をビデオカメラで記録する。児童が絵地図にまとめる際にいつでも見ることができるよう環境にした。電子地図なども並行して活用することで、具体的な情報を地図上に表すことができるようにしていきたい。

また、調べたことがわかるように絵地図を教室半分程度の大きさに設定した。子供たちが実際に歩いて道を確認したり、イラストや絵を見て町の様子をイメージしやすくしたりできると想定した。通常の地図では情報の読み取りが難しいが、拡大することで、子供たちが地図を読み取ることが分かりやすいようにした。

7 本時の指導

(1) 本時の全体目標

○学区探検で調べたことを絵地図や白地図にまとめたり、土地の使われ方に気が付いたりできる。

(2) 個別の目標

	個別の目標
A 児	メモや動画を見て、絵地図に町の様子を表すことができる。
B 児	教師と一緒に、イラストや写真を使って絵地図を作ることができる。
C 児	メモや動画を見て、絵地図に町の様子を表すことができる。
D 児	教師と一緒に、町の様子を絵にかいて、絵地図作りを行うことができる。
E 児	教師と一緒に、イラストや写真を使って絵地図を作ることができる。
F 児	絵地図作りを行いながら、土地がどのように使われているかを考えることができる。
G 児	教師と一緒に、絵地図に町の様子を表すことができる。
H 児	絵地図作りを行いながら、土地がどのように使われているかを考えることができる。
I 児	絵地図作りを行いながら、土地がどのように使われているかを考えることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	支援の方法 (全体支援□・個別支援○・評価◇)	教材 教具
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>・写真を見て、自分が予想した町の様子を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">学区探検で発見したことを地図にまとめよう。</div>	<p>□学習の見通しがもてるように、拡大した地図やイラストを用意する。(T2)</p> <p>□4方位についての確認がとれるよう、東西南北体操を行う。(T1・T2)</p>	<p>拡大地図 イラスト</p>
<p>2 学区探検で歩いた道を確認し、どのような様子だったかを振り返る。</p> <p>・学区探検で作成した地図を見ながら、何があったかを確認する。</p> <p>・ビデオで町の様子を振り返ったり、拡大地図の上を歩いたりする。</p>	<p>○学区探検の道のりが分かるように、拡大地図の上を教師が手を繋いで歩く。(T2) <E児></p> <p>○調べたことを思い出すことができるように、学区探検で通った場所の動画を流す。(T2) <A児・B児・C児・D児・E児・G児></p> <p>○拡大地図に書く情報の手がかりとなるように、動画を視聴したときの感想や気付きを板書に残す。(T1) <F児・H児・I児></p> <p>◇動画を視聴したり、探検メモを見て、町の様子について発表することができる。</p> <p style="text-align: right;"><社会的事象への関心・意欲・態度></p>	<p>PC 拡大テレビ</p>

<p>3 班ごとに分かれ、拡大地図に町の様子や気が付いたことなどの情報を書き込んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の活動が終わったら、まだ終わっていないグループの手伝いをする。 <p>■家班<B・D・E児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検メモを見て、拡大地図に家のイラストを教師と一緒に貼る。 <p>■マンション・公共施設班<F・I児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検メモや写真を元に、拡大地図にマンションと公共施設のイラストを貼る。 ・地図から分かる情報を書き込む。 <p>■お店班<A・C・G・H児></p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検メモや写真を元に、拡大地図にお店のイラストを貼る。 ・地図から分かる情報を書き込む。 <p>4 学習の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想した地図の写真と作成した拡大地図の様子を見比べる。 ・学習を通じての感想・気が付いたことについて発表する。 	<p>□児童の活動が明確になるように、地図に書き込む情報の担当を決めておく。(T1)</p> <p>□いつでも町探検の様子を振り返ることができるように動画が視聴できる準備をする。(T1)</p> <p>□地図上の位置や名称が分かるように、マンションや店の写真を掲示する。(T1)</p> <p>○拡大地図に貼る家のイラストを用意する。(T2)<B児・D児・E児></p> <p>○児童の活動意欲が高まるように、絵を書くための紙や水性ペンを用意する。(T2)<D児></p> <p>○拡大図に貼るマンション・公園・神社・郵便局・保育園・小中学校のイラストを用意する。(T1)<F児・I児></p> <p>○拡大図に貼るお店のイラストを用意する。(T1)<A児・C児・G児・H児></p> <p>○交通量や住宅地が密集している箇所に着目できるように、声掛けを行う。(T1)<G児・H児></p> <p>○不安な気持ちが生まれないように、活動中は教師が寄り添うようにする。(T1)<G児></p> <p>◇楽しんで地図作りに参加することができる。 <関心・意欲・態度></p> <p>◇場所によって土地の使われ方が違うことに気が付くことができる。<社会的な思考・判断・表現></p> <p>◇身近な地域の様子について情報を集め、絵地図にまとめることができる。<観察・資料活用の技能></p> <p>◇拡大地図を見て、学区内には沢山の家やマンション、施設や店があることに気が付くことができる。<社会的事象への知識理解></p> <p>□発表者が安心して発言できるように、どのようなことでも発表していいと声を掛ける。</p>	<p>写真</p> <p>水彩ペン</p> <p>イラスト</p>
---	--	-----------------------------------